

## シグマ研究委員会 昭和58年第2回運営委員会議事録

日 時 昭和58年6月17日(金) 13:30~17:30  
場 所 研究2棟222号室  
出席者 原田(委員長, 原研)  
梶山(東北大), 中嶋(法大), 白方(動燃), 五十嵐,  
菊池(原研)  
オブザーバー: 鹿園, 長谷川, 松本(原研)

### 配布資料

1. 第1回運営委員会議事録(案)(58.4.22)
2. シグマ特別専門/研究委員会議事録(案)(58.6.6)
3. Japanese List for INDC Document Distribution
4. NEANDC "A", "U", "Index" Distribution
5. CINDA Distribution list for Japan
6. Japanese Nuclear Data Committee
7. トリウムサイクル用 ENDF/B-V データに関する Block の手紙
8. Proposal for Consultants' Meeting on Nuclear Data for Nuclear Safety, 1985
9. Sixth International Conference on Radiation Shielding, Preliminary Program Schedule
10. 1983年核データ研究会の実施案
11. 56, 57年度, 2年報の編集スケジュール(予定)
12. 積分データによる JENDL-2 調整の問題に関する検討の報告
13. JENDL 積分評価WG, 第1回会合議事録(58.5.10)

## 議 事

### 1. 前回議事録確認

資料1により確認を行った。

### 2. 本委員会（シグマ特別専門委員会）議事録確認

慣例により、6月6日の本委員会の議事録確認を資料2により行った。

### 3. 事務局報告

#### (1) Document 配布リストの改訂について

五十嵐氏から、INDC及びNEANDC資料の配布リスト（資料3、4）、CINDA配布リスト（資料5）、JNDCメンバーの英文名リスト（資料6）について報告があった。5月20日までに内容のコメントを求めたが1件の回答もなく、INDC関係では、山室氏→北沢氏（東工大）、小林氏→瑞慶覧氏（日立）、関氏→菅原氏（MAPI）の変更のみ、その他についても小改訂であった。変更の情報はできるだけ早く通知して欲しいこと、また英文名作成が大変なので、各人から書いて貰う形にしたいとの話があった。

#### (2) Progress Report への寄稿案内について

Progress Report の本年度版を作成する時期になったので、寄稿案内を出した。締切りは7月30日である。

#### (3) 木村氏より ENDF/B-V データについてのコメント

五十嵐氏から木村氏がRPIのBlock氏にトリウム・サイクルのENDF/B-Vデータを入手できないか問合せたところ、資料7の手紙にあるように、Block氏が米国内の何人かに打診した結果は、データ交換という前提がなければ可能性は少ないということであった。この点について、シグマ委員会として善処して貰えないかと要望されたとの報告があった。この問題に関しては、データバンクのNordberg氏がRosen氏に相談したが、現状は悲観的であり、直ぐにうまくことが進みそうにないという話であった。原田委員長より、何等かの具体的条件を出して、B-Vデータ取得の努力をした方がよからうとのコメントがあった。

#### (4) 安全性核データに関する IAEA Consultants' Meeting

原田委員長から、資料8により安全性核データに関するIAEA会合が

1985に開催を予定されていること、INDCの各メンバーが自国において、この会合開催についてどのような寄与が可能かを調べて、年末までに報告を求められているとの説明があった。原研安工の桂木氏にも依頼はしてあるが、核データ専門部会内でも内容を紹介し、意見があればその都度、原田氏または五十嵐氏に伝えて欲しいと要望された。

#### 4. 遮蔽国際会議報告

菊池氏から、資料9を用いて5月16日～20日に東京で開催された標記会合について報告があった。プログラムの概要、特に興味があったシールドに対する断面積の感度解析と積分実験による調整、Feの非弾性散乱データの話、それから原研として初めて大きな国際会合を持ったことに関しての問題点などについて説明があった(詳細は省略)。また資料はsection毎に整理してあるので、関心のある人は菊池氏へ連絡されたいとの話があった。

#### 5. 本委員会の反省

6月6日に開かれた本委員会の反省ということで、さまざまな議論があった。その主な点は以下の通りである。

- (i) 本委員会の報告事項、講演などが、すべてOHPを使わず資料による口頭説明になったが、少なくとも講演位はOHPを使ってじっくり説明してほしかった。これに対しては、事務局から、今回の会場を早くから本部に申し込んだが取れず、細長い会議室を使うことになったので、OHPの準備はしたが、使っても一部の人には見辛かったかも知れない。次回は要望に沿うように努力したいとの説明があった。
- (ii) 本委員会では、資料を早目に出席者に送り、会場での報告は要点のみにとどめ、少くも最後に1時間位は自由討論の時間を持ちたいとの意見があった。これに対し五十嵐氏から、現状は議論は運営委でやり、本委員会は1年に1度ということもあって、どうしても報告事項を山積みする結果になる。また資料の提出を早くと依頼しても間際になって出て来るものもある。議論の時間を多くしたいと思っていたが、今回もそのように運べなかったという説明があった。

さまざまな議論があったが、来年は1時間程度の自由討論の時間をとれ

るようにしたいとの結論になった。

(iii) 本委員会を年2度開催する可能性については、旅費の問題から難しいこと、またたとえば研究会と続けて本委を開く可能性についても、現状では事務局は研究会の開催だけで手一杯であり、同時に本委を開く余裕はないという説明があった。

(iv) (ii)に関連して運営委と本委員会の役割について議論があった。

## 6. 学会特別会合

学会特別会合のテーマについて議論を行った。“FCAのアクナイドの積分実験解析”が採り上げられ、スピーカーとして黒井氏(原研)に打診してみることになった。またJPDRの解体に関しても話題に上った。

## 7. 原子力総合シンポジウム

神田氏(九大)が“原子力におけるデータベース”というテーマを予定して運営委に意見を求めて来たことに関して、議論された内容を連絡することになった。

## 8. 2年報の準備

松本氏から、資料11により、56, 57年度2年報の編集スケジュールと内容構成案について説明があった。原稿締切が8月末、学会投稿は前回より1ヶ月早めて、10月初めの編集委に間に合わせる予定である。

## 9. 核データ研究会の準備

菊池氏から、中沢氏による資料10を用いて、核データ研究会の第0次案について説明があった。日程は11月17日(木)、18日(金)または24(木)、25日(金)を考えていること、またプログラム委員については議論検討を行って、中沢(東大)、菊池、長谷川、中島、関(原研)、北沢(東工大)、松延(住原工)、川合または飯島(NAIG)の各氏が推薦された。

## 10. 核データ調整の問題

長谷川氏から、資料12, 13によって、JENDL積分評価WGがJENDLの積分実験による調整について、ad hocグループを持って検討した経過と、その結論として“調整を行うことが望ましい”との答申を行ったこと、WGとしてはその答申に賛成し、具体化のために積分データの選定、共分散デー

タの作成作業に着手したこと，作業体制は現メンバーで間に合うことなどが報告された。

またこの ad hoc グループの答申を本委員会で説明し，承認を求めようとしたことに対しては，手続き的な側面から議論があった。そして今後シグマ委員会の全体の活動に影響を及ぼすような提案は，運営委員会で十分議論をするようにという意見が強かった。菊池，関両専門部会長の間で，他のWGとの調整を十分行うよう要請された。

次回は7月22日（金）の午後，原研本部で行う予定